

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 1194300057 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 宥和 | | |
| 事業所名 | グループホームトマト村 | | |
| 所在地 | 埼玉県本庄市北堀1946-1 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年1月30日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年4月21日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|-----------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター | | |
| 所在地 | 埼玉県さいたま市中央区落合五丁目10番5号 | | |
| 訪問調査日 | 平成22年2月18日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|-----------------------------------|
| <p>入居者一人ひとりの心理面をいつも把握する様努めている</p> |
|-----------------------------------|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

| |
|--|
| <p>理念に掲げられている「ゆったりと穏やかに」を基本としたケアの実現に向けて工夫と努力が見られる。 職場内での職員間のコミュニケーションも良く、早番と日勤の職員が出席する昼礼等で利用者情報を共有しながら介護の質の向上を図っており、チームケアで利用者を支援している。 さらに、併設の関連事業所の看護師やメンバーからも介護の情報や研修を受けたり、協力を得たりすることで、職員のケアの資質向上にもつながっている。</p> |
|--|

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 管理者は法令の意義を理解しており、管理者と職員は運営理念を共有して、その実現に取り組んでいる | 「ゆっくり穏やかに」という理念を職員全員がよく理解し、利用者と家族の安全と安心に配慮した生活感、家族感あふれるケアが実践されている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 施設の行事等(例えば納涼祭等)で地域の方々に来ていただいたり、市内一斉の清掃活動への参加により、地元の方々との交流に努めている | 利用者が地域の清掃活動に参加したり、防災活動に職員が参加したりと積極的な働きかけをしている。納涼祭や収穫祭へ地元の方の参加を呼びかけるなど地域との交流が図られている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 現在は事業所の力を活かした地域貢献は取り組んでいない | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議を実施し、出していただいた意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議での家族や参加者からの意見を積極的に取り入れ、自分達のケア技術の向上、サービスの向上につながるよう努めている。 | さまざまな立場の方から、幅広い意見をいただけるように、参加者の関心の高いテーマ(防災対策など)を作るなどの工夫をされることに期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 適宜、市役所の担当者の処に行き、相談調整を行っている | 市が主催する行事に参加したり、理事長やスタッフがさまざまな相談等を行い、市との連携への積極的な働きかけをしている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束のないケアを目指しているが、入居者が危険を伴う時等やむをえないときは御家族の了解を得て行うが、常に状況把握をしながら取り組んでいる | 利用者の安全と健康を確保することを前提に身体拘束のないケアを目指しており、常に新しい知識も身につけながら、職員間で支援方法を検討し理解を深めている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者や職員は研修等で学び、虐待防止に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者、職員は権利擁護、成年後見制度等の研修をしている また、それらを理解し活用出来るよう支援をしている | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時に文書で示し、説明し、充分理解・納得をしていただいている | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 運営推進会議には、家族や利用者に交替で出席してもらい意見等表せる機会を持ち、家族の面会時等に気軽に職員と話が出来よう取り組み、玄関には「意見箱」を設け、速やかに対応し運営に反映している | 意見箱を設置して、そこに寄せられた意見はケアの向上にすぐ反映させるようにしている。「言葉使いが馴れ馴れしい」との苦情に対して、即職員全員で対応を検討して、良い効果を上げている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 月に一度職員会議を開き、管理者に出席してもらい、職員の意見や提案を出す機会を設け反映させている | 「利用者のことは現場でないとわからない」という現場尊重の認識が管理者にあり、ケアについて思ったことや要望、アイデアなどはどんどん受け入れる環境が整い、職員の意見が反映されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 研修会、勉強会、講演会等に積極的に参加出来る職員が向上心をもって働けるよう取り組んでいる | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員は段階に応じた研修を受ける機会の習得や、職員本人が関心のある研修にも積極的に参加出来るよう取り組んでいる | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 北部グループホーム協議会に加入し、勉強会や事例検討会等を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の話を傾聴し、心身の状態や生活状態等を把握しよう努めている | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 家族の話を良く聴き、状況を把握しよう努めている | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時、本人と家族の話を良く聴き、状況を確認しながら対応に努めている | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除、洗濯、食事作り、草取り等それぞれに合ったことを職員と一緒にやりながら、昔話を聞いたり教えてもらったりしている | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 日常生活での出来事や心身の状態等密に情報交換をするように努めている また、家族にも出来るだけ支援に加わってもらえるよう働きかけている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 大切にしてきた人については、こちらに訪問してもらい、電話や手紙での連絡を取り持つことは支援している | 入居前の生活状況を把握して、今までの生活の延長上にある大切な人との馴染みの関係を継続させるよう利用者、家族の理解も得ながら支援している。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 日常的にデイルームに集い、孤立せず、入居者同士の助け合いや気持ちの支え合いが行われるよう支援している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 特別老人ホームに移動された利用者等、時々様子を見に行ったりしている また、家族も立ち寄ってくれる | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日々の会話、行動、表情等から把握するよう努めている また、困難な場合は家族からの情報も大切にし、きちんと把握するようにしている | 利用者が発する「非言語的コミュニケーション」を大切に、教育勉強にも力がそそがれている。利用者の行動の予兆を見逃さないように傾聴にも努めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人ひとりの生活歴や好みを知り、職員間で話し合い課題を決めている | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 一人ひとりの一日のリズムを把握するよう努めている | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 個々のアセスメントと共に本人はもとより家族の方からも意見を伺い、また、必要に応じてかかりつけ医の先生にも随時相談のうえ、個々の状態、ニーズ等に即した介護計画の作成に取り組んでいる | 利用者一人ひとりの状態、希望、変化に合わせた実態に即した介護計画作りを職員全員の意見を取り入れながら実施している。またケース記録などで職員間で情報共有もしており、介護計画の見直しにも活かしている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や気づき等、一人ひとりの状況をケース記録に記入し、職員間で情報を共有している | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 隣接の特養看護師による医療連携体制及び地域交流ホームを利用し、合同の行事を行う等している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 併設施設、公民館等に理解、協力を働きかけている | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人、家族の希望及び納得している医療機関や歯科医療機関の受診を行っている | 事業所の協力病院の受診を押しつけることなく、利用者や家族の希望を優先させており、複数の医療機関の受診が可能となっている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 特養の看護師に毎日来てもらい、相談しながら日常の健康管理等支援している | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院中は見舞も兼ね適宜面会に行き、医師や看護師より本人の状況を伺ったり、医療機関との連携は密にとるようにしており、家族との連絡や話し合いも行っている | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化してきた場合等、前もって家族の方とも話し合い、かかりつけ医にも相談の上、職員会議でも話し合う等、方針を共有するよう取り組んでいる | 終末期の対応は事業所の知識レベルの向上に向けて、努力されている。利用者や家族、そして医師との早い段階からの話し合いは常に行われている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急事態に対してのマニュアルがあり、また、職員の研修も行っている | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に年2回の消防訓練を消防署立会いで行い災害時に対応できる方法を身につけるよう取り組んでいる。また、隣接する同法人、他事業所との連携が図れており、連携体制での消防訓練も行われている | 自主防災を前提に避難訓練や救急時の救命法の研修などを実施している。また同敷地内の他の事業所や地元の消防分団との協力体制もあり、夜間時想定訓練も行っている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員一人ひとりが言葉遣いに気を付けて、お互い不適切と気づいた時は、注意を促し合い心配りをしている また、守秘義務の徹底を図っている | 全職員が利用者のプライバシーの確保と人格の尊重についての意識は高く、当たり前のこととして習慣化されている。また個人に関する書類の管理方法も厳格に決められ、守られている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切にし、納得しながら暮らせるよう支援している | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりのペースを大切にし、出来るだけ職員サイドからの決まりごとを少なくして、利用者個人の希望に沿った支援を行うよう取り組んでいる | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | それぞれの個性や好みを尊重している 美容に関しては、定期的に施設に来てもらい、本人の希望を取り入れながらカット等行っている | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 前もって食事の献立内容が判る様にしており、昼食は職員と一緒に会話をしながら、楽しい食事のひとときを過ごすようにしている また、可能な範囲での片付け等は職員と利用者で、一緒に行っている | 法人で収穫したお米でご飯を炊いたり、利用者の希望についても積極的に取り入れている。また利用者と職員と一緒に食べたり、準備や片付けを一緒にやることで、家庭的な雰囲気を楽しんでいただいている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 栄養士による献立に基づき、栄養のバランスやカロリー等管理されており、その都度水分及び食事摂取状況等のチェックを行い、個々に応じた支援を行っている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後の歯みがきや、寝る前の入れ歯の洗浄、消毒等行っている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | それぞれに合ったトイレ誘導や声かけ、ポータブルトイレの設置を行い、なるべく自立出来るよう支援している | オムツにはできるだけ頼らず、その方の残された力を生かして、トイレでの排泄や自立へ向けての支援を行っている。あまり過剰な誘導もしないようにし、又失敗されても気にしないような精神的ケアにも努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | ラジオ体操等の適度な運動への声かけや便秘予防のための食品をとるよう取り組んでいる また、医師と相談の上、薬剤も併用している | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 時間や回数は決まっているが、一人ひとりの希望を取り入れ、楽しく、くつろいだ入浴をして頂く様配慮している | 入浴はできるだけ利用者の希望にあわせて対応している。入浴時間も長くとり、職員と利用者1対1で、機械的にならないようにゆっくり楽しんでいただく支援を行っている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々の生活習慣を把握し、生活リズムを作り、安心して休息したり安眠出来るよう支援している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬は医師の指示どおり服薬し、職員も目的、副作用等把握しており、症状の変化に注意を払っている | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 毎日の食事の後片付け、洗濯干し、取り込みやたたみ、掃除等、利用者の能力に応じて出来る事を一緒にやり、精神的に落ち着きのない時は、散歩等を勧め、気分転換を図るよう取り組んでいる | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している | 利用者からの希望と共に利用者の状況や天候に合わせ、近くへ散歩や買い物、車での外出等、なるべく外に出て過ごす機会を多くもつように取り組んでいる | 家族も含めた食事会への外出などの支援を行い、利用者の希望にあわせて積極的な外出をしていただくように心がけてはいる。 | 家族やボランティアの協力も得ながら、職員が積極的に外出支援に取り組めるような方法をミーティングや勉強会を通して、全員で構築されることに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 管理能力のある方には、家族と相談をし小銭程度をもっていただいている また、職員と一緒に買い物に行き、好きな物を買って、レジで支払いが出来るよう支援している | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人からの希望によって、手紙や電話が利用できるよう支援している | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 対面式の台所に畳みやカーペット等で、家庭的な雰囲気を作っている 食堂には季節ごとの手作り作品を貼り、季節感を感じたり、カレンダー等で生活感を採り入れる等工夫している | ゆとりのある空間作りを目指して、廊下にベンチを設置して利用者がくつろげるような工夫もされている。装飾にはカレンダーや手作りの季節感を感じさせる壁紙などが利用されるなどの工夫がなされている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 廊下の突き当たりに長椅子を置き、日向ぼっこをしながら、会話や歌等楽しませている | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 使い慣れた家具や装飾品等を持ち込んで、安心、安定して過ごしていただける場所となるよう取り組んでいる。また、壁にはボードを設置し、本人・家族の写真やレクでの本人の作品等を貼って、楽しめるよう支援している | 家族の協力のもと、部屋作りはプライバシーと安全の確保を優先に取り組まれている。新しいものではなく、利用者が自宅で使っていた馴染みのものを揃えていただいくよう支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 浴槽・着脱室・居室の洗面台等、必要に応じて手摺が設置されている また、居室の前に手作りの表札をつける等工夫もしている | | |

(別紙4(2))

事業所名 グループホームトマト村

目標達成計画

作成日: 平成 22年 4月 18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | |
|----------|------|--|---|---|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 目標達成に要する期間 |
| 1 | 4 | 運営推進会議の開催回数が年3回しか出来ない。また地域の方の参加呼びかけが少なかった。 | 2ヶ月に1度の開催と、民生委員や区長、士会長、本庄市職員又は地域包括支援センター職員の参加 | ・参加への呼びかけを行う。 ・開催予定を年間計画に入れる。 ・非常災害対策をテーマにした会議の開催。 12ヶ月 |
| 2 | 49 | 職員が付添って外出する時間に限りがあるため、その日、その時の希望に合わせることが難しい。 | 1人又は少人数への外出が出来るようになる。 | ・運営推進会議等で取り組方法を話し合う。 ・家族対応で外出が出来るよう協力をお願いする。 ・他事業所との協力支援や調整等を図り外出が出来るようにする。 12ヶ月 |
| 3 | 35 | 隣家が離れているため、地域との協力体制が築きにくい。 | 年2回の消防訓練の他、救急救命法の研修を実施する。 | ・地域との協力体制を築いていけるよう話し合う。 ・救急時の救命法の研修を行う。 12ヶ月 |
| 4 | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。